

南相馬市駐在レポート

第5号

平成28年3月
福島県教育庁文化財課南相馬市駐在

本年度の調査も大詰めに

寒さがまだまだ身にしみる中にも、少しずつ日が延び、着実に季節が春に向かっているのが実感できるこの頃です。文化財課南相馬市駐在では、冬の間も寒さと戦いながら、東日本大震災の復旧・復興事業に係る遺跡の調査を進めてきましたが、本年度の調査もあとわずかとなり、いよいよ大詰めに迎えるようとしています。

今回は、本年度後半から短期間ではありましたが、精力的に調査支援に携わって頂いた派遣職員の皆さんをご紹介します。

業天 唯正さん（青森県派遣）

派遣期間：平成27年12月



トレンチ（試掘溝）の壁に現れた土層の観察及び記録作業中の業天さん（南相馬市鹿島区の調査地にて）

○ 一ヶ月という限られた期間でしたが、南相馬市北部にある鹿島地区で埋蔵文化財の調査に従事しました。業務を通じて印象に残っていることは、福島県職員の皆さんが非常に細やかな作業をされていたことです。調査後の耕作に影響がないよう、掘ったトレンチ（試掘溝）を慎重に埋め戻し、重機が通った跡も丁寧に消すなど丹念に作業されていました。一方で、調査をしている傍らで農道の除染作業が行われているところもあり、ここが被災地であることを再認識させられる場面もありました。

○ 職場に戻った後、福島県での体験を話す機会があります。その際には、被災地において復興の推進と文化財を護るということを両立させながら、困難な仕事に励んでおられる福島県職員の皆さんの姿を伝えています。そうした現状を聞いた周囲の同僚・上司は、共感するところが多いようです。また、同じく文化財に向き合う仕事に就いている私も、新たな気持ちで職務に従事する日々を送っています。（業天さんより）

真鍋 貴匡さん（香川県派遣）

派遣期間：平成 27 年 11 月

トレンチ（試掘溝）より検出された平安時代のもので推定される焼土と溝跡の実測作業中の真鍋さん（南相馬市鹿島区の調査地にて）



- 一ヶ月という短期間で、南相馬市の鹿島中学校の近くで試掘調査を行いました。調査区西側には遙かに阿武隈山系が南北に広がり、地元の方々と仕事をする中で、土地の方言や郷土の文化など多くの事を教えて頂きました。
- 休日の土・日は雨が多く出歩ける機会は限られましたが、テレビを通してでしか知りえなかった震災の爪痕を自分の眼で記憶できたことは、大きな財産になりました。
(真鍋さんより)

宮崎 敬士さん（熊本県派遣）

派遣期間：平成 28 年 1 月～2 月



この日(1/15)は前日に浜通りでも大雪になり、前の週に掘り上げておいたトレンチ（試掘溝）の雪かきから作業が始まりました。（南相馬市鹿島区大六天遺跡にて）

- 今日 1/15, 玄関を出ると外は一面の雪景色！急いで部屋に戻り、靴下・軍手そしてセーターをディパックに詰め込んで出勤しました。現在は、ほ場整備事業（水田区画整理事業）関連の埋蔵文化財試掘・確認調査にたずさわっていますが、その調査風景の1枚をご覧ください。
- 雪が積もっていても、トレンチの周りを除雪して、土がグチャグチャになる前に素早く遺構確認、写真撮影、測量記録をしていくのです。寒いうちに作業をこなすのが、冬仕事の第一歩と教わりました。
(宮崎さんより)

復興調査のために本県に派遣された支援職員の方々は、沖縄県から青森県と全国に及んでいます。派遣職員の方々は、調査そのものの支援と共に実際に見聞された津波被害や原発事故による被災地の現状や復興の様子を、派遣元で直に伝える役目も担って頂いています。